

印刷物をスキャニングして作成しているため、画質が悪くなっています。200%に拡大してご覧ください。

温度計測機能の使い方

温度計測機能は、内蔵の温度センサーが時計本体の温度を検出し、デジタル表示する機能です。また、あらかじめ設定された時間ごとに温度を計測し、メモリーする（最大30本）こともできます。

工場出荷時に基準温度がセットしており、そのままでお使いになれますので、本機の温度表示が大きくずれている場合以外は絶対に温度調整を行なわないでください。

■温度計測について

●常時温度計測機能

本機はすべてのモードで、2分おきに温度を自動的に計測します。

※場合により2分ごとに計測が行なわれないことがあります。故障ではありません。

現在温度は、時刻モード（温度表示）で見ることができます。

●即時温度計測機能

最新の温度を計測することができます。

時刻モードのとき、カレンダー表示から⑩ボタンを押して温度表示に切り替えると、そのときの温度を計測し、表示します。

●温度メモリー機能

本機は、あらかじめ設定された時間ごとに温度を計測し、メモリーする（最大30本）ことができます。また、メモリーされた温度は、温度リコールモードで見ることができます。「温度メモリーのしかた」参照

〈ご注意〉

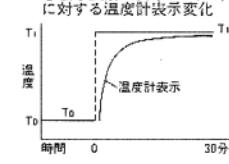
温度センサーは時計に内蔵されているため、本機の計測する温度は時計自体の温度となり、急激な温度変化があった場合など、時計自体が実際の温度と同じになるには約30分程度かかります。また、体温（腕に付いているとき）、直射日光、水滴等の影響を受けて、正確な温度を計測する場合は、時計を腕からはずし、風通しのよい陰陰で、水滴をよく拭き取ってから計測を行なってください。

参考 以下の場合、正確な温度を表示しないことがあります。それぞれのグラフを参考にして温度の目安にしてください。

●急激な温度変化があった場合

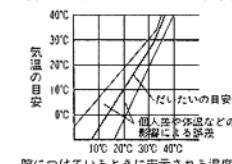
時計自体の温度が実際の温度と同じになり、正確な温度を表示するまで約30分程度かかります。

急激な温度上昇(T_0 から T_1)に対する温度計表示変化



●腕についたままで温度（気温）を計測する場合

本機は腕に付いているときは、体温などの影響により正確な温度を計測できないことがあります。



●温度表示の見方

「カレンダー表示のとき、⑩ボタンを押して温度表示にします。」

温度傾向グラフ表示

現在温度（右端）を基準として、毎正時の温度データ（過去5時間以内）と比較し、その差（一日盛=2°C）を表示します。

●オーバー表示

温度が表示範囲（-20.0°C～60.0°C）を超えた場合、「-.-」と表示されます。温度が表示範囲内に戻ると、通常に表示します。

■温度調整のしかた

本機の温度計測機能は、工場出荷時に調整してありますので、本機温度の調整を行なう必要はありません。信頼ある温度計があって、その温度に対して本機の表示が大きくなっている場合にのみ以下の操作に従い温度を調整してください。この温度調整を誤って使用しますと、温度計測が正しく行なえなくなりますのでご注意ください。

1 時刻モード（温度表示）のとき、⑩ボタンを押すと温度が点滅して調整状態となります。

2 ⑩ボタンを押すごとに0.1°Cずつ進み、①ボタンを押すごとに0.1°Cずつ戻りますので、⑩または①ボタンで温度を合わせます。

※それぞれ押し続けると早送りします。

※⑩、①ボタンを同時に押すと、工場出荷時に調整してある基準温度に戻ります。

※調整できる範囲は、表示している温度の-9.9°Cから+9.9°Cまでとなります。

3 ⑩ボタンを押すと時刻モード（温度表示）に戻ります。

●温度調整するときのご注意

- ①信頼できる正確な温度計と比較して行なってください。
- ②温度調整は、本機を腕からはずし、30分以上放置して温度を安定させてから行なってください。
- ③温度調整のセット操作は、すみやかに行なってください。体温の影響により温度が変化することがあります。
- ※温度調査は、本温の安定した水中で行なうと、より正確にできます。
- ※⑩、①ボタンを同時に押すと工場出荷時の基準温度に戻ります。

●温度調整状態で表示を点滅させたままにしておくと2～3分後自動的に点滅が止まり、時刻モード（温度表示）に戻ります。

■温度メモリーのしかた

本機は、センサーによって計測された温度を最大30本までメモリーすることができます。また、温度をメモリーする間隔（10分、1時間、3時間、24時間の4種類）を選ぶことで、温度変化の傾向を知ることができます。

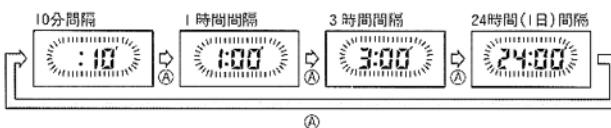
●メモリー間隔を選ぶ ⑩時刻モードのとき、⑩ボタンを2回押して

温度リコールモードにします。

1 温度リコールモードのとき、⑩ボタンを押すと、メモリー間隔表示が点滅します。

※工場出荷時には「1:00（1時間）」がセットされています。

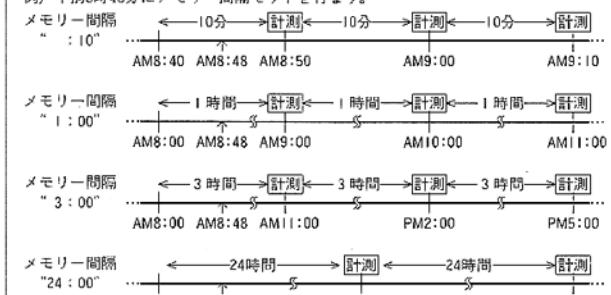
2 ⑩ボタンを押すごとに次のように表示が切り替わります。メモリー間隔表示



3 メモリー間隔を選び終わったら、⑩ボタンを押し、温度リコールモードに戻します。

●メモリー間隔セット表示のまま、2～3分すると点滅が止まり、温度リコールモードに戻ります。

メモリー間隔をセットすると、以後、それぞれ次のようにメモリーを行ないます。



印刷物をスキャニングして作成しているため、画質が悪くなっています。200%に拡大してご覧ください。

時刻・カレンダーの合わせ方

電池交換後などで時刻やカレンダーが合っていない場合は、以下の方法で合わせてください。

- 時刻モード（カレンダー表示）で⑩ボタンを1回押して時刻セットモードにします。
- ⑫ボタンを押します。

時刻セットモードのとき、⑬ボタンを押すごとに点滅午前マークが以下の順で移動します。

点滅箇所がセッタ可能ですので、⑬ボタンでセッタしたい箇所を選びます。



*12/24時間制表示切り替え

秒・時・分のいずれかのセッタのときに⑪ボタンを押すごとに12時間制表示と24時間制表示とが切り替わります。

※年は西暦から1990年～2029年までセッタできます。

- 点滅箇所が⑭ボタンを押すごとに1つずつ進み、押し続けると早送りができます。

⑭ボタンでセッタしたい箇所を選び、⑭ボタンで表示をセッタする操作をくりかえし行ない、時刻・カレンダーを合わせてください。

注)「時」のセッタのとき午前(A)/午後(P)、24時間制(24)にご注意ください。

注)サマータイム(DST)に切り替えるときは、時差のセッタも合わせてセッタしてください。

- セッタが終わったら(どの箇所が点滅している)、⑭ボタンを続けて2回押すと点滅が止まり、セッタ完了です。

※カレンダーを変更した後、⑭ボタンを2回押して時刻モードに戻すと、日の出・日の入り時刻を計算する計算表示となります。

●時刻セッタ状態で表示を点滅させたまにしておくと、2~3分後自動的に点滅が止まり、時刻モード（カレンダー表示）に戻ります。

●カレンダーはうるう年および大の月、小の月を自動判別するフルオートカレンダーですので、電池交換時以外は修正不要です。

日の出・日の入り時刻の見方

日の出・日の入りモードで、任意の日の日の出・日の入り時刻を見ることができます。また、日の出・日の入り時刻をもとにして太陽の出ている時間のグラフ表示(デイライトグラフ表示)も行ないます。

ご注意

本機の日の出・日の入り時刻は使用場所の緯度・経度・時差をセッタせんと正しく表示されません。ご使用時には、「使用場所のセッタ」をよくお読みになり、各セッタを行なってください。なお本機は、工場出荷時に「東京(GMT+9, 140°E, 36°N)」のデータがセッタされており、また、本取扱説明書の例題もすべて使用場所を「東京」としています。ご使用場所によっては表示内容が異なりますので、ご理解の上操作を行なってください。

日の出・日の入り時刻の見方

- 時刻モードのときに⑮ボタンを押すと、日の出・日の入りモードになります。

→今日（カレンダーで表示されている日）の日の出・日の入り時刻を表示します。

- 日の出・日の入りモードのとき、⑮ボタンを押すごとに日付が1日ずつ進み、⑮ボタンを押すごとに1日ずつ戻ります。（日付順送り表示機能）

※押し続けると早送りできます。

→日付を指定して⑯または⑰ボタンから手を離すと、約15秒間の計算表示の後、その日付の日の出・日の入り時刻を表示します。

- 日の出・日の入り時刻を見終わりましたら、⑮ボタンを押すと、時刻モードに戻ります。

参考

日の出・日の入りとは

本機で言う「日の出・日の入り」とは海拔0mにおける水平面での時刻で、海拔高度や地形により多少の誤差ができます。一般に高度が高くなるほど日の出は早くなり、日の入りは遅くなります。

日の出・日の入り時刻の計算

日の出・日の入り時刻は日付による均時差(実際の太陽と平均的な太陽とのずれ)と視赤線(季節によりかかる太陽高度)、場所によるGMTとの時差と緯度・経度により決まります。本機では、これらのデータを簡略化した推算式により概算していますので、地域によっては多少の誤差があることがあります。

●日の出・日の入り時刻の予測誤差：低～中緯度・約5分以内 高緯度・約5～10分以内

■使用場所のセット（緯度・経度・時差のセット）

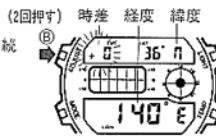
本機では日の出・日の入り時刻を計算するために緯度と経度および世界標準時を基準とした時差をあらかじめセットする方式を採用しています。

セッタは一度行なえば再びする必要はありませんが、旅行や引越しなどで大きく移動した場合はその場所の緯度・経度（海外のときは時差）をセットしなおしてください。

※現在お住いの場所の緯度・経度につきましては、巻末にあります「日本の緯度・経度」またはお手もとの地図を参照してください。

緯度・経度・時差のセット

- 時刻モード（カレンダー表示）のときに⑭ボタンを続けて2回押すと時差のセッタとなります。



- このとき⑭ボタンを押すごとに時差が1つずつ進み、⑪ボタンを押すごとに時差が1つずつ戻ります。

※⑮・⑯ボタンを押し続けると早送りができます。

⑯あるいは⑭ボタンを押しとお住いの時差を表示させます。日本の時差は+9時間ですので、日本で合わせるときは“+9”とします。

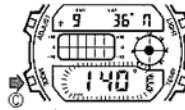
※その他の国で時差を合わせるときは「時差と緯度・経度」の表を参照してください。

※サマータイム(DST: Daylight Saving Time)を採用している場合は、通常の時差に+1時間した時差をセットしてください。



- 時差のセッタが終りましたら、⑭ボタンを押すと経度のセッタとなります。

経度は⑭ボタンまたは⑮ボタンを押すごとに以下の順に表示しますので、緯度を表示させます。



□⑮ □⑯
180° E～0° E～179° W * E: 東経
⑭□ ⑮□ W: 西経

※⑮・⑯ボタンとも押し続けると早送りができます。

※緯度・経度のセッタは1度('')単位ですので、その間(分単位)は1度単位に丸めてセッタしてください。

例: 50° 40' は51° とセッタする。

※日本国内の緯度・経度について、「日本の緯度・経度」を参照してください。

- 経度のセッタが終りましたら、⑭ボタンを押すと緯度のセッタとなります。

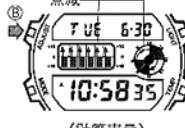
緯度は⑭ボタンまたは⑮ボタンを押すごとに以下の順に表示しますので、緯度を表示させます。



□⑮ □⑯
65° N～0° N～65° S * N: 北緯
⑭□ ⑮□ S: 南緯

- 時差・緯度・経度のセッタが終りましたら⑭ボタンを押すと点滅が止まり、時刻モードに戻ります。

※時差・緯度・経度を変更した後、⑭ボタンを押して時刻モードに戻すと、内部計算が行なわれ、計算表示となります。



- セッタ状態で表示を点滅させたままにしておくと、2~3分後自動的に点滅が止まり、時刻モードの表示に戻ります。

日の出・日の入り時刻のグラフ表示

日の出・日の入りモードで、任意の日の日の出・日の入り時刻を見ることができます。また、日の出・日の入り時刻をもとにして太陽の出ている時間のグラフ表示(デイライトグラフ表示)も行ないます。

日の出・日の入り時刻のグラフ表示

日の出・日の入り時刻を表示するときに、デイライトグラフ表示が選択されます。

→今日（カレンダーで表示されている日）の日の出・日の入り時刻を表示します。

→日付を指定して⑯または⑰ボタンから手を離すと、約15秒間の計算表示の後、その日付の日の出・日の入り時刻を表示します。

→日付を指定して⑯または⑰ボタンから手を離すと、約15秒間の計算表示の後、その日付の日の出・日の入り時刻を表示します。</p